

審判上の注意事項について

(公財) 日本中体連審判規則委員会

- 1 本大会は、2026年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則、および、2026年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部ルール of 6人制ルール取扱いにより実施する。リベロは、試合ごとに2名まで登録できる。
- 2 プログラム記載時刻は、試合開始のホイッスルの時刻である。
- 3 「トス」の後、監督及びチームキャプテンは、記録用紙にサインする。その際、監督はリベロナンバーを記入する。
また試合後は、監督と両レフェリーが握手を交わすことを奨励する。
- 4 公式ウォームアップは、6分間とする。どちらかのチームが相手チームとは別にネットを使用したウォームアップを要求した場合は、各3分間ずつ行うものとする。その際、ネットを使用しないチームは、ネットを使用するチームの練習を妨げてはならない。
- 5 各セット開始前にコート内でハドルを組む際は、ラインアップシートに記載された6人とスターティングリベロの計7名までとする。
- 6 およそ8秒のテンポでサービス許可を行うため、次のサーバーは、相手からの返球を待たずにサービスゾーンに移動し、ボールを待つ。
- 7 リベロリプレイメントは、交代する2名がサイドライン上ですれ違うように行う。その際、交代する選手同士が、手を挙げたり、つま先を揃えて一旦立ち止まったりする必要はない。
- 8 いかなる場合でも、試合を遅らせることのないように注意する。また、コート上の選手がベンチのスタッフや交代選手とタッチ（ハイタッチ）などを行わないこと。
- 9 ゲーム中のワイピングは、原則としてコート内の選手が行う。タイムアウト、給水のためのタイムアウト、セット間及び審判員が危険と判断した場合のみモップの使用を許可する。
- 10 監督はラリー中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。ただし、ラインジャッジの判定に差し支えない位置で指示を出すこと。
- 11 タイムアウトの要求は、オフィシャルハンドシグナルを明確に示して要求すること。サブスティチューションについては、クイックサブスティチューションシステムを採用する。（準決勝・決勝はナンバーパドルを使用する。）
- 12 各コートには、ウォームアップエリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。
- 13 セット間は、フリーゾーンでのボールの使用を認めるが、隣のコートの妨げにならないように注意し、パス程度とする。
- 14 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。（相手チームに向かってのガッツポーズ等）
- 15 予選グループ戦及び、決勝トーナメント準々決勝戦まではワンボールで試合を行うので、デッドになったボールは、速やかに次のサーバーに渡すこと。
準決勝戦及び決勝戦は、5ボールシステムで行う。また、クイックモッパーを配置する。